

## タイ採集旅行2006

---

再び、タイに採集しにダイビングを兼ねて行ってきました、今回はプーケットを採集したがプーケットを出て北上しカオラックという一昨年の津波で壊滅的打撃を受けたところまで北上しその帰りに道の所々にある河川でも採取した。

一月一二日



うえの写真が一昨年のインベリスの採集された池です。

古い会誌をお持ちの方は比較してみよう。

プーケットから出てすぐ北の、一昨年採集した池と川での採集の結果だが津波の被害によると思おうがシーアモンドの木が多くは倒れてなくなり池の周囲が明るくなり環境が変化しておりシーアモンドの葉が多く沈んでいたのが認めることが出来ない。

生物はパンチャクスが多く水面に認められるものの網による採集ではベタ インベリスは採集できない。

この池の北のあった比較的大きな池はリゾート開発に寄る埋め立てで無くなり当然生物は認められない、パンチャクスはこちらの池に残ったがグラミーが居たけどこちらの池にはいない。



前ページの向かい側の池のあったところ。池の規模は100mくらいだった。



睡蓮とアプロケイルス パンチャクス 撮影は前ページの池  
更に2-3キロ北上したところの小さな池はオリジウス ミュティルスがいるしパンチ

ヤクスや植物ではタヌキモなどがあり里芋科の植物の根元にはスリースポットグラミーが居た池もリゾート開発のために埋め立てられている。

この池の道を隔てて流れている川では数多くのコイ科の魚が採取できたが今回は採取できなかつたがパンチャクスは数多く認めることが出来た。

結論として津波は自然環境を破壊したがそれは人間による破壊に比べれば軽く、又生物に決定的な影響を与えること、つまりいかなる水生生物やそこにすんでいる関連した生物を絶滅させることを環境を完全に破壊することには津波は及ばない。

ヒューマニズムつまり人間中心主義という現代の一つの弊害である。

このあとプーケットにかえりバンタオビーチで採集するがここはパンチャクスが数多くいたがほとんど認められずにオリジラス ジャワニカスのみであったので津波の影響は認められると思う。

更にパトンビーチでも採集したがオリジラス ジャワニカスは認められるもの数は少なくなぜか稚魚が殆ど居なくて深みに成魚が居て採れずホテルに帰るがその川の南側にあった現地人の家屋は粗末な木を組み合わせた高床式のものだったが全部コンクリートの小屋に建て替えられている、多分政府の援助があったと思われる。



パトンビーチの津波で壊れたが今は復興したタイ人の家

各ビーチは今日も人で一杯に見えるが宿泊先のホテルは殆ど宿泊客が少ないのでサービスが良くなっており客室もスタンダードなものを頼んで置いたのにデラックスルームにかえたりとかディナー券も一回だけは無料、マッサージも無料、カクテルも一杯無料だったので必死さが伺える。

一月一三日

前日の結果が余りにも貧果であり今回の目的の一つであるオリジラス ミュティルス  
の採集が出来なかったので本日はもっと北上し一〇〇キロほど北のカオラックまで行  
きました、一月一〇日のダイビングの帰りに目を付けて置いた池に行くためである。

今回も前回同様、独学で日本語を習得したタイ人ドライバーの運転で朝八時からカ  
オラックへ向かうが道中もあらゆる川や池の水域に目を配ることをおこなわらない。

無論、帰りには目星のついた川で採集するためでありこれがやはり功を奏して良い結  
果を生むことになるがそれはさておきカオラックの池を運転手は知っていたのには驚  
いた。

タイ人のタクシードライバーなどぼん引きドライバーであり女かショッピングにし  
か客を案内したことがないだろうという認識で居たがやはり此奴は違う。

採集旅行で成功するためには何と行ってもタクシードライバーの選定が重要でたと  
え英語が出来たとしても目的とする生物が何であるかを説明することは容易ではな  
い、魚が欲しいと言っても食べるためと鑑賞の違いもあるし鑑賞するということ  
ができないと良く分からないようなところに連れて行かれる。

カオラックの一番目の池はベタ インベリスが三匹採集され又グラミーも採れたし  
タヌキモも採取されたので津波の影響は比較的少ないと思う、美しい池でタヌキ  
モの黄色い花と睡蓮が多い。

二番目の池はもっと 海に近くここはオリジラス ジャワニカス、パンチャクス  
が採集されてほかに雷魚の仲間のクレニシクラの一種やテラピアがいるがグラ  
ミーやインベリスは居ない。

2番目の池の向かいには3番目の池には運転手が網を入れたらオリジラス  
ジャワニカスが採れたが要らないので捨てたし2番目の池にくっついて小さな池  
が水位が下がって居るため出来ていたがここもオリジラス ジャワニカス、パン  
チャクス、ハゼの仲間がいた。

こうしてカオラックでの採集は終わり帰路に就くがまだまだ1時半で日は高く  
焼けた腕がまだまだ行けと言っているようだ。

そこで運転手に橋があったら止まれといいそれは川があるはずだからといい暫  
く走っていくとすぐやはり川はある。

橋の上から網が届かないので急な草の生えた斜面を慎重に下りまずは一投、な  
にやら4匹ぐらい銀に光る小魚が掛かっているがよく見たらこれがおなじみの  
パールダニオでおなじみの熱帯魚にこうして会うとなにやらおかしい、その  
後も一生懸命やってもパールダニオばかり、仕方ないので上流に移動しやっ  
てもパールダニオは多いがハゼに混じってベタ インベリスが1匹採れたき  
りで諦めたが何か気になることがある。

それは川の橋の下に川中央に葉の広い水草が沢山生えていることでこれが  
気がなり橋の下流に出て葉を取ってみると葉裏が赤くこれはクリプトコ  
リネではないかと思われた。

でも普通売っているクリプトコリネってこんなに巨大だったけ？これでは  
アマゾンソードよりも大きいわ？

しかしとも網で押してもなかなか採れない、さんざん押してようやく一つ採  
れるが、



2番目の池、堅い車軸のような葉の水草で全面が覆われている。

何故採れないかようやく分かる、根に白く切断された部分がありみんなランナーで繋がっていて採れないがようやく3つ採る、下の写真の茶色に見える葉がクリプトコリネです



こうしてみると葉の上にはどろどろの堆積物がありどうやって光合成が出来るのか不思議だがもう一度行って堆積物や水質チェックをしたい。

帰って来てクリプトコリネに詳しい人に見せたら多分コルダータでもし花が黄色ならそう違うならプルプレアらしい。

このごろクリプトコリネの分布が狭くなっているらしいと聞いているので簡単に見つかりミニユティルスが採れなかったのが悔しいと思っていたのがようやく忘れることが出来た。

これでもうこの川は止めたと思って車に乗り車が走り出してふと外を見るとさっきの川の上流に湿原が広がって居るのではないか、しまったと思ったがもう遅い。何又これればいいと思った、あの湿原ならミニユティルスやコッキーナがいそうだなーと思いつつ次の採集地へ。

次は10キロぐらい南下した道路を横切る川でさっきの川より水量は多く橋の南側は結構速い流れになっているが橋の下は深い淵になっており魚が泳いでいるのが見えるが泳ぎが速くて採れないのでさらに上流といっても10mくらいで細い流れに分割されているので手前の流れを探ってみるとベタ インベリスやパンチャクスが採れてくる、特にインベリスはここで10匹以上採集できた。

ここで体力が尽きたのでポケットに帰った。



最後の採集地の川の橋下流部です、流れがある所。



前ページの  
の上流部で  
小さな20  
cm程度の  
浅い流れ。

今回の行程



青い点線が今回の行程です、  
採集地はおおよそです。





